

## 序 文

内田直作教授が古稀を迎えられたことを寿ぐ気持ちをこめて、成城大学経済学部は教授の古稀記念特集号を刊行することを議し、その編集を進めていたが、ここに漸く記念号が上梓されることになった。ささやかながら、この論文集の刊行をもって内田教授の古稀をお祝いするわれわれの微意を御諒察いただければ幸いである。

成城大学経済学部が創設されたのは昭和二十五年四月であるが、この記念号に収められている年譜によっても知られるように、内田教授はすでにその前年の九月に成城大学設立準備委員として成城学園に着任されているのである。そして、大学設立とともに経済学部教授に就任され、「成城学園職員服務分限規則」の定めるところにしたがって、昭和五十一年三月定年退職されるまで、実に二十六年余の長きにわたって講義・研究指導に尽力されたのである。

それのみでなく、昭和三十五年四月から四十四年三月までの九年間は経済学部長として教授陣容・学科内容の整備拡充に努められた。昭和三十五年の経済学部所属専任教員数は十八名であったのに対し、現在では四十四名に増加しており、この間に経済学部のスタッフが急速に充実されたことが知られるのである。また、従来は経済学部経済学科の一学部一学科制であり、その経済学科の中に経済コースと商業学コースが設けられていたが、内

## 序 文

田教授の学部長在任中の昭和三十七年には商業学コースを経営学コースに改められ、将来経済学部には経済学科と経営学科の二学科を設ける基本路線を敷かれた。この路線にしたがって、経済学部を二学科にわけようとする計画が進められ、遂に昭和五十一年に実現されるに至ったのである。本年度入学生は、それぞれ希望する学科の特色を生かしたカリキュラムにしたがって勉学することができるよう経済学部の学科組織の充実が達成されたことは、まことに喜ぶべきことであると思う。

なお、教育施設の改善について見ても、現在経済学部が主として利用している大学三号館の建設にあたっては、内田教授が建設委員の中心となって、非常な努力を払われていたことを記憶している。三号館に設けられたゼミナール教室、教員研究室によって研究指導上の効果が大きいに高められたことは何人も認めているところである。

さらに、大学院経済学研究所の設置に際しても、経済学部長内田教授が設置準備委員会の委員長として、教授の補充・学科目の拡充に非常な努力を払われ、その結果、昭和四十二年には経済学研究所の修士課程、博士課程が同時に認可されるという立派な成果を見ることができたのであった。しかも、昭和四十九年四月から五十一年三月まで経済学研究所長として大学院の実質的充実に努められたのである。

このように、成城大学の発展に対する内田教授の御貢献はきわめて高大であり、われわれは、このことに深く感謝し、かつ永く銘記すべきである。

内田教授は昭和六年東京商科大学を御卒業後、直ちに上海東亜同文書院教授に就任され、昭和十五年には母校に帰られ、さらに昭和二十四年には成城大学設立のために成城学園に招かれたのである。その永年の間教授は学

問研究の道を進まれ、著作目録によって知られるように、立派な研究成果を発表され、東洋経済史の研究に新しい領域を拓かれている。特に華僑社会の研究では貴重な学問的業績を発表され、学界に多大の寄与をなされているのである。

古稀を迎えられたとはいえ、教授はきわめて御健勝御元気であり、成城大学御退職後も亜細亜大学教授として、また成城大学の名誉教授として、研究指導に尽力されている。今後とも本学に対する変らぬ御支援を賜わるようお願いするものである。

昭和五十一年十月一日

成城大学経済学部長

岡 田 俊 平